

ビワマス稚魚の琵琶湖への加入状況

大前信輔

1. 目的

ビワマスは重要な漁獲対象種であることから2006年以降毎年春時点の資源量を推定し、その結果を資源管理に反映してきた。しかし、資源量推定手法であるコホート解析には漁業および遊漁による捕獲量が必須データであることから、資源量の推定は翌年になってしまう。近年の遊漁による利用は増加しており、より早期の資源状況の把握が求められている。そこで、将来的な早期の資源状況の把握に資するため、ビワマス稚魚の琵琶湖への加入状況の把握を目的として調査を実施した。

2. 方法

調査は、知内川河口付近の高島市知内地先、安曇川河口付近の高島市南船木地先、和邇川河口付近の津市小野地先および野洲川河口付近の野洲市吉川地先の4か所のエリで実施した。2023年4月13日から6月30日までの期間に混入した稚魚の数をエリの操業日ごとに記録した。

3. 結果

混入状況は地点により異なった(図1)。知内地先の混入合計は28尾で、最多月は4月であった。南船木地先の混入数は計549尾と地点別では最多で、最多月は5月の479尾であった。小野地先の混入数は計5尾で地点別では最小であった。吉川地先の混入数は計429尾で、最多月は4月であった。4地点の合計混入数は1,012尾であった。

混入数が多くかつ毎日の操業があった南船木地先について、混入と降雨との関係を調べた。なお、降水量は気象庁の気象データベースから今津の日別降水量を用いた。図2に示すように50mm程度のまとまった降雨があったのは、4月26日、5月7日、19日、29日、

6月2日および6月22日であった。一方、5尾以上の混入があったのは4月27日(6尾)、4月28日(7尾)、5月9日(329尾)、5月10日(131尾)、5月11日(9尾)、5月20日(5尾)、6月4日(9尾)、6月5日(27尾)、および6月7日(5尾)であった。南船木地先では、約50mm以上の降雨があった日から数日以内にまとまって混入する傾向を示した。

今後、データの蓄積を図り、加入尾数の年変動と資源量の年変動との関係を調べる予定である。

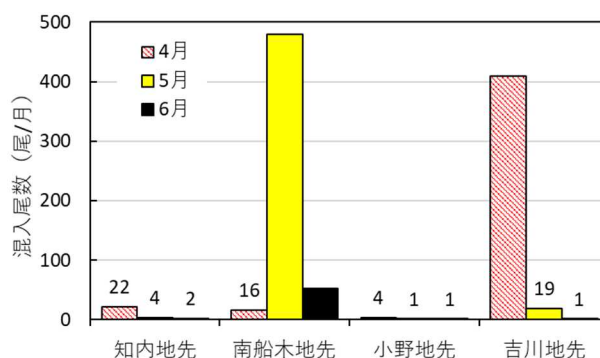


図1 地点別月別の混入尾数

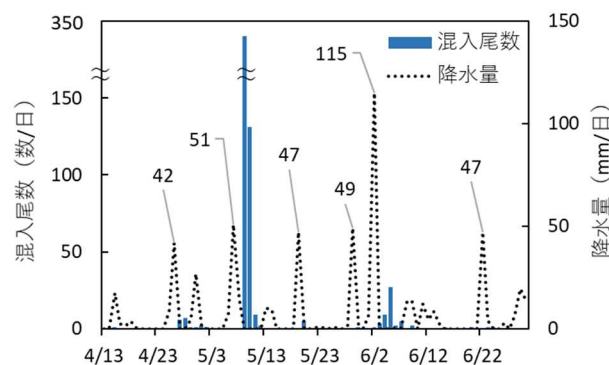


図2 南船木地先における日別混入尾数と今津における日別降水量